風土記の丘の花だより190

今、そしてこれから見られる植物（2023年6月17日）

今年の梅雨は、久しぶりに梅雨らしい梅雨ですね。よく降ります。うっとうしいですが、草木はたくさんの命の水をいただいて、生き生きとして、うれしそうに見えます。

ヒルガオの花が咲いています。でもこれは本当はコヒルガオです。「コ」がつくのです。ヒルガオは余り見かけません。去年、紀ノ川のせせらぎ公園の河川敷で見かけましたが、今年も咲いているでしょうか。アサガオの葉の根元は左右に張り出していますが、コヒルガオはその張り出しの下にチョコンと出っ張りがあります。また、ヒルガオの葉の方が細長いようです。これは修復古墳の西の方で撮りましたが、今は草ぼうぼうでとても歩きにくいです。花が目立つので、探せばあちこちで見つかりますよ。

ツユクサはこの季節によく似合う花です。青と黄色と白のコントラストがとてもきれいな、みんなが知っている野の花です。これほど鮮やかな青い花は他には見当たりません。実はこの花はややこしくて、調べれば調べるほど興味深いです。写真はめしべ（一番下の白くて細長いの）が長く伸びているので、両性花といいます。雄花のめしべは短くて奥に引っ込んでいます。黄色いのはおしべです。おしべはさらにややこしいので、この辺で。

谷山家のヤマブキの右側の斜面などにコジキイチゴの黄色い実がたくさんなっています。（これをご覧になる頃に、落ちてしまっていたらごめんなさい）何号か前の花だよりで白い花を紹介しましたが、今回は実です。今年は特に多く実っているように思いますが、気のせいでしょうか。万葉植物園をはじめ、何故かあちこちで目につきます。特においしくはありませんが、毒もありませんので、話のネタに、勇気のある方は食してみてはいかがですか。私はずっと以前（何十年になるでしょう・・・）に食べたことがありますが、食感は覚えていません。

よく似た実が続きますが、これはヒメコウゾの実です。これは最近（といっても１０年ほど前）食べましたが、ねっとりしていたのを覚えています。表面に毛が生えているので、舌触りがモヒトツだったことも覚えています。紙すきに用いるコウゾは、これと、同じクワ科のカジノキを掛け合わせて作ったものです。花だよりもそろそろ２００号を迎えます。マンネリにならないようにがんばりますので、ご愛読のほどお願いします。

松下

風土記の丘の花だより191

今、そしてこれから見られる植物（2023年6月24日）

梅雨の中休みはとても暑かったですね。今の季節は、降ったら降ったで、照ったら照ったで、体調管理が大変です。山歩きも健康あってこそ、お互い気を付けましょう。

今回は小さな花から紹介しましょう。ヤブコウジの花です。草のように見えますが、これでもれっきとした木です。冬の間は真っ赤な実が目立ちましたが、花は実ほど目立ちません。薄いピンク色でうつむき加減に開きます。万葉植物園の至る所（ちょっと大げさかな？）に生えています。葉は常緑でつやがあり、庭に植えられているのもよく見ます。センリョウ・千両やマンリョウ・万両などと同じように洒落て十両と呼ぶ人もおられます。何はともあれ、おめでたい名前ですね。サクラソウの仲間です。

ウリクサの花は上のヤブコウジよりも更に小さめです。色は少し青みがかった紫色です。少し湿り気味の地面に張り付くように生えます。これも万葉植物園で撮影しました。ヤブコウジを撮って、振り向いたらこれが生えていました。よほど気を付けていないと見逃すか、踏みつけてしまうか、その程度の草です。でも、花はよく見るととてもすてきな色と形です。もう少し大きければ、みんなに見てもらえるのに・・・・と思うのは私たち人間だけかもしれませんね。この色や形、大きさが一番ウリクサらしいのでしょう。

この黒っぽい花はコクランです。漢字で書くと「黒蘭」、黒ではありませんが、確かに黒く見えます。梅雨の時期にこんな地味な、というかシブい花を咲かせます。ランというと一般的に華やかなイメージがありますが、こんなランもあるのです。にもかかわらず、このランも例にもれず盗掘の対象になっています。気を付けて探せばあちこちで見つかりますが、見るたびに「今年も無事だったか」とホッとします。ランで掘られないのはネジバナぐらいです。

最後はつる植物のアオツヅラフジです。他の木やフェンスなどに巻き付いています。誰も気にかけないどころか、時として厄介者となる植物です。この花もとても小さいです。雌雄別株で、それぞれに雌花と雄花が咲きます。といっても外見ですぐにわかるものではありません。写真は雄花で中にめしべがありませんが。雌花にはちゃんとめしべがあります。雌株には秋になると白い粉をふいた黒っぽい丸い実ができます。「ツヅラ」とは昔の物入れ「葛籠・づづら」のことで、このつるで編んだことによります。　松下

風土記の丘の花だより194

今、そしてこれから見られる植物（2023年7月15日）

月曜日、突然の雷雨には驚きました。これをご覧いただく頃には、梅雨明けしているでしょうか。関東の方ではものすごい猛暑だというし、一方、九州北部の大水害には改めて自然の力の大きさを思い知らされた感があります。被災された方々にお見舞い申し上げます。

さて、一つ目は涼しげな水草の花を紹介します。前からずっと咲き続けているこの黄色い花はアサザです。和歌山県のレッドデータブックでは絶滅危惧１A 類になっています。「ごく近い将来において、野生での絶滅の危険性がきわめて高いもの」ということになっている植物です。藤棚の隣にある新池の水面を覆うように広がっていますが、何年か前に万葉植物園から株分けして植えたものです。５枚あるように見える花びらの周りは細かなフリルのようになっていますが、遠くて見えないのが残念ですね。

オニユリが咲きました。ものすごくインパクトのある色彩と斑点が特徴です。清楚なイメージのユリとはかなり趣が違います。茎を観察すると葉の付け根あたりに黒くて丸いものが付いています。ムカゴです。これが落ちて芽吹いて、新しい株ができます。

左の植物は花もなく華やかさに欠けますね。シダですから、いつまでたっても花は咲きません。名前はホシダです。先が細長く伸びて、独特の姿です。シダはどれも同じように見えますが、このシダだけはまず見間違うことはないでしょう。こんな草はしばしば「邪魔な草」「見苦しい雑草」として刈られてしまいがちです。それはそれでいいですが、刈り取る前にしばし心に余裕を持って、カッコいいこの草の姿に見とれてほしいものです。それに、よくよく見れば、このシダもなかなか涼しげに思えてきますよ。

この花はまた細かいですねぇ。ヒメドコロの花です。ヤマノイモの仲間で、周りの草や木などに巻き付いて伸びます。今あちこちでこの花を見ることができます。この仲間は、ヤマノイモ（じねんじょ）の他は「なんとかドコロ」という名前が付いています。道沿いにはカエデドコロもよく見られます。葉が手のひらみたいに広がっているので、すぐに区別できます。　松下